

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00990

研究課題名（和文）北欧自由基督教宣教団と戦後期日本の社会文化史 - グローバル地域文化交流史の記録化

研究課題名（英文）Northern European Free Christian Mission & Socio-Cultural History of Post-War Japan: A record of Cultural Exchange

研究代表者

大谷 渡 (OHYA, WATARU)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：80340644

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではフィンランド自由海外伝道教団の全面的協力が得られ、1950年代におけるタパニ・カルナ、レア夫妻やラウリ・ヘイモネン宣教師らの京都での足跡を解明した。特に、彼らの伝道によって入信した当時京都大学学生だった2人の証言者から取材できたことにより、フィンランド人宣教師と日本人の交流をその心の襞にまで踏み込んで記録化できた。タパニ・カルナ、レア夫妻各々のフィンランド語の著書を手に入れたことも大きな成果であった。山梨・神奈川・静岡におけるスウェーデン宣教師たちの足跡は、甲府市の初期教会員への取材から大きく進展した。これらの研究成果は、2024年3月に国際シンポジウムを関西大学で開催し公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、戦後中国共産主義革命に追われ台湾を経て日本に入り、1950年代から60年代にかけて、大阪・愛知・京都・兵庫・滋賀・福井・石川・山梨・神奈川・静岡において開拓伝道を行った北欧自由基督教宣教団の宣教師たちの足跡と、当時の日本人及び日本社会との交流の実相と全体像を記録化した。なかでも、京都に入ったフィンランド人宣教師のタパニ・カルナ、レア夫妻及びラウリ・ヘイモネン、リーサ夫妻に導かれた京都大学学生たちの精神世界は、当時の北欧と日本との社会的文化的交流の史実として、学術的にも社会的にも重要である。京都のフィンランド人宣教師たちは、日本伝道に従事した北欧各国の宣教師たちの要に位置していた。

研究成果の概要（英文）：In this study, with the full cooperation of the Finnish Free Foreign Mission, we were able to identify the footprints of Tapani and Lea Karna and missionary Lauri Heimonen in Kyoto in the 1950s. In particular, I conducted interviews with two graduates of Kyoto University who had joined the faith through their missionary work, and documented the interaction between Finnish missionaries and Japanese people, including their spiritual world. Our research also yielded the acquisition and deciphering of the Finnish books written by Tapani and Lea Karna. In addition, the footprints of the Swedish missionaries in Yamanashi, Kanagawa and Shizuoka were clarified considerably from interviews with early church members in Kofu City. The research findings were presented at the international symposium held at Kansai University in March 2024.

研究分野：日本近現代史

キーワード：フィンランド人宣教師と戦後日本 スウェーデン人宣教師と山梨・神奈川・静岡 日本人青年の精神世界と国際交流

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』(大谷渡著、東方出版刊、2018年)は、『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』(大谷渡著、東方出版刊、2015年)から浮かび上がった北欧のキリスト教ペンテコステ派宣教師と、戦後日本の若者たちとの交流の史実を追究したものである。日本統治下の台湾に育った麗珍・麗娟姉妹が北欧の若き女性宣教師キーステン・ハーゲン(Kirsten Hagen)に出会ったのは、1949年であった。

台南のミッションスクール長栄高等女子学校の校長だった番匠鐵雄を尊敬した姉妹の父は、翌年ハーゲンが日本へ移動する際に、番匠が副院長を務める名古屋の金城学院高校への二人の留学を依頼した。1951年春に瀬戸で開拓伝道を始めたハーゲンは、姉妹を呼び寄せ共に暮らした。高校と短大時代を母のように慕った姉妹の回想から、ハーゲンの足跡と戦後日本で開拓伝道を行った北欧の「Free Christian Mission」の輪郭が初めて浮かび上がった。

前記の『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』の出来間近だった2015年6月に、私はキーステン・ハーゲン(当時92歳)をノルウェーのオスロ近郊シー(Ski)に訪ねた。キーステン・ハーゲンの海外宣教を支援したライラ・オデガードさんの協力を得たシーのサーレン教会などにおける実地調査によって、彼女の生い立ちが初めて明らかになった。この成果をもとに翌年2016年5月4日に、瀬戸市文化センターにおいてシンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」を開催した。同シンポジウムは『朝日新聞』と『読売新聞』が大きく取り上げ、当日は一般市民・研究者・学生で満席となった。

2016年6月には、再度ライラ・オデガードさんをシーに訪ねたあと、オスロからバスでノートオッデンに向かい、福井県の大野市と勝山市で長く伝道に携わったランヒル・ラヴォスさんに会って取材し、同地で実地調査と資料収集を行ったのち、スウェーデンストックホルムの自由キリスト教外国宣教本部で日本宣教資料の調査と収集、及び研究上の意見交換を行った。さらに翌2017年6月には、福井県武生宣教の開拓者オーゴット・ベルゲ宣教師とランヒル・ラヴォス宣教師の二人を日本へ派遣したノルウェーサンネスのクリッペン教会を訪ね、スタヴァンゲル市街やラヴォス村などを実地調査し資料収集を行った。

2017年には、福井県丸岡町と石川県小松市において開拓伝道を行ったアンナ・ブルーンに関する資料調査のために、コペンハーゲンのエヴァンゲリエキルケン教会と、かつて福井県金津町において開拓伝道に携わったイエスパーセン夫妻を訪ねた。そして2018年5月に、日本と北欧において収集した資料をもとに、前掲『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』を出版した。

同書では、戦後日本に入った北欧自由基督教宣教団の宣教師たちと当時の日本の若者たちとの交流を主題とし、戦後復興期から高度成長期にかけての愛知県・福井県・石川県における地域社会の変貌との関わりにおいて、また宣教師たちの出身地や生い立ちを背景に、北欧と日本の文化的社会的交流の史実の詳細と全体像を明らかにした。同書出来後の5月には、越前市文化センターにおいてシンポジウム「北欧から来た宣教師と福井の人々」を開催した。同年6月には、ノルウェーノートオッデンで国際シンポジウム「Missionaries from Northern Europe: Free Christian Church in Post War Japan」を開催して基調講演とランヒル・ラヴォスさんと対談を行い、多くの来場者から高い評価を受けた。

2. 研究の目的

研究開始時においては、北欧自由基督教宣教団のノルウェー人宣教師及びデンマーク人宣教師の開拓伝道の足跡と、それぞれの出身地域の社会や文化を背景とした日本人信徒との交わり

の実相については相当程度明らかにでき、記録化を終えることができていた。しかし、北欧自由基督教宣教団のフィンランド人宣教師とスウェーデン人宣教師たちの日本での開拓伝道の足跡と彼らと日本人との社会的文化的交流については、断片的な情報しか得られていなかった。

そこで、2020年4月採択の科研課題「北欧自由基督教宣教団と戦後期日本の社会文化史 グローバル地域文化交流史の記録化」では、これまでほとんど取り組みえなかったフィンランド人宣教師たちの日本における開拓伝道とスウェーデン人宣教師たちの開拓伝道の実相に迫る研究に着手し、その全体像、及び社会や文化を背景とした彼らと日本人との心の交流の詳細を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、フィンランド人宣教師とスウェーデン人宣教師の開拓伝道によって開かれた教会や初期信徒所蔵の資料を収集し、初期信徒および宣教師の両方に関する文字資料と口述資料の収集分析を進め、あわせて日本における開拓伝道地域と宣教師の本国の出身地域の社会・経済・文化・歴史に関する資料の収集と分析を行った。

フィンランド人宣教師の開拓伝道地域は、京都府と滋賀県、スウェーデン人宣教師の開拓伝道地域は、山梨県・神奈川県・静岡県である。これらの地域に所在する教会とのかかわりにおいて、日本国内では関西・中部・東海・関東、国外ではフィンランド・スウェーデン・台湾の対象都市で実地調査を行い、北欧の宣教師と日本人信徒に関わる資料の収集検討の上に立って、北欧の宣教師と日本人の社会的文化的交流の足跡とその詳細を記録化した。

4. 研究の成果

1950年に京都に入ったタパニ・カルナ、レア夫妻、1952年に来日したラウリ・ヘイモネン、リーサ夫妻、アンナ・マキネン、ユッカ・ロッカたちフィンランド人宣教師の京都における開拓伝道の実相は、彼らに導かれて熱心な信徒となった当時京都大学学生だったふたりの方から取材することができ、タパニ・カルナ、レア夫妻の孫にあたる宣教師夫妻との不思議な出会いとその協力によって大きく進展した。いずれも、研究調査に全面的に協力くださった FFFM (Finnish Free Foreign Mission) の力添えによるところが大きい。

世界的なコロナウイルス禍の中にあって、行動が大きく制限されながらも進展させることができた研究成果は、『日本近現代史研究』第7号(2021年1月)に大谷渡執筆「北欧から来た宣教師と戦後日本 - フィンランドから京都へ -」、橋寺知子執筆「タパニ・カルナ著『KAUNIS SAARI JA NIPPON』について」を掲載し、同誌第8号(2022年1月)には、「北欧から来た宣教師と戦後日本(2) - フィンランドから京都へ -」(大谷渡)「資料紹介 Lea Kärnä 著『Palavan pensaan äärellä Eino I. Mannisen persoona ja elämäntyö (燃える茨の茂みのそばで - エイノ・マンニネンの人生と仕事)』(橋寺知子)を掲載し公表した。また、『関西大学東西学術研究所創立70周年記念論文集』(遊文舎刊、2022年)には、『日本近現代史研究』第7号掲載の研究成果を踏まえた論文「フィンランド自由海外伝道教団と戦後日本 - ヘルシンキから京都へ -」を掲載した。

京都大学学生だったふたりのうちの一人からは、フィンランド人宣教師とノルウェー人宣教師と共に京都万寿寺通で1950年代終わり頃に開いた「聖書研究集会」を撮った写真の提供を受けるとともに、フィンランド人宣教師との文化的交流の心の裏に迫る貴重な話を聞かせてもらった。いま一人からは、ペンテコステ派の浸礼を受けた時と、聖霊のバプテスマを受けた当時

の日記を見せていただき、話を聞かせてもらった。提供を受けた文字資料や口述資料などは、上記の論文として記録化した。

スウェーデン人宣教師たちの山梨県における宣教足跡についての研究は、甲府カルバリ純福音教会の古くからの教会員が、『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』を甲府市の書店で買ってくださったことがきっかけとなって大きく進展した。2022年6月に、私は南アルプス市の旧櫛形町域を歩いて実地調査を行ったあと、南アルプス市立図書館と南アルプスグローバルチャーチ小笠原純福音教会を訪ねた。小笠原純福音教会では、スウェーデン人宣教師と甲府カルバリ純福音教会の古くからの教会員が待っていてくださり、貴重な話を聞かせてもらった。写真や資料も見せていただいた。この時の研究取材の成果は、『日本近現代史研究』第9号(2023年3月)「北欧から来た宣教師と戦後日本(3) - スウェーデンから山梨へ -」を掲載し公表している。2024年3月7日に関西大学で開催した国際シンポジウム「北欧から来た宣教師と戦後日本」の『研究報告集』に掲載した「スウェーデン人宣教師の日本伝道四十年回顧」と、「スウェーデン人宣教師アンダーソン夫妻の甲府伝道の足跡」は、その時の話をもとにまとめたものである。

1990年刊の『風と炎 純福音教会四十周年記念誌』には、スウェーデン人宣教師の開拓伝道によって設立された東京都1、神奈川県3、山梨県4、静岡県3の教会沿革の記述がみえる。2001年5月刊の『FCMF50周年記念誌』には、ノルウェー人宣教師とデンマーク人宣教師の開拓伝道によって設立された14教会の沿革が記されている。その内訳は、愛知県2、福井県8、石川県2、兵庫県2である。2001年1月刊の『愛は海を越えて FFFM日本宣教50年史』には、フィンランド人宣教師たちの開拓伝道でできた教会、すなわち京都府7、滋賀県9、福井県1、大阪府1の沿革が記されている。これらの教会とその他の伝道施設を加えると、北欧の宣教師の開拓伝道によって設立された教会と伝道拠点は四十を超える。それらは、いずれも日本の戦後復興期から高度成長期における開拓伝道によって信徒集団が形成され、教会及び伝道施設となって結実したものであった。

FFFM、すなわちFinnish Free Foreign Missionの宣教師たちによる開拓伝道によって設立された関西及び北陸における教会の名称と伝道開始年は次のとおりであった。

京都府内では、「京都キリスト福音教会」1950年、「山科キリスト福音教会」1952年、「木幡キリスト福音教会」1956年、「深草キリスト福音教会」1956年、「綾部キリスト福音教会」1960年、「宇治キリストペンテコステ教会」1960年、「亀岡ベタニヤ教会」1969年である。滋賀県内では、「大津韓国福音教会」1955年、「大津キリスト福音教会」1962年、「雲井キリスト福音教会」1964年、「甲賀キリスト福音教会」1964年、「水口キリスト福音教会」1966年、「守山キリスト福音教会」1971年、「玉川キリスト教会」1979年、「甲西キリスト福音教会」1981年、「安曇川キリスト福音教会」1993年である。大阪府内では、「枚方キリスト福音教会」1958年、福井県内では「小浜キリスト福音教会」1959年である。

上記の教会を設立したFinnish Free Foreign Missionの日本伝道の草分けとなったのが、タパニ・カルナ、レア夫妻であった。夫妻は中国共産軍に追われて香港から台湾に逃れ、日本に渡る前に台中の彰化から苗栗県竹南へ移り開拓伝道を行っていた。その伝道がもとになって、キリスト教竹南神召会ができたことは、タパニ・カルナ、レア夫妻の孫にあたる来日中の宣教師への取材の中で知り得た。2023年12月下旬における台湾での研究調査では、キリスト教竹南神召会への取材によって、フィンランド人宣教師が1949年9月に竹南で伝道を始めた史実を確認した。北京語でつけられたフィンランド人宣教師の名は、郭司提反牧師、孟亞拿教師である。1953年12月、戴佩貞、伊克勤教師がフィンランドから伝道のために竹南に来た。1955年10月3日に

は、陳國勳長老宅で礼拝堂を建てるための会議が行われた。そして、1955年11月24日に竹南で土地を購入し、献堂工事が行われたが、工事がいつから始まりいつ完成したかは不明とのことであった。フィンランド人宣教師の元の名は、現在の教会で知る人はいない。

タパニ・カルナ著『KAUNIS SAARI JA NIPPON』には、1949年における竹南での宣教当時のことが記されている。同書には、ノルウェー人宣教師のキーステン・ハーゲンやオーゴット・ベルゲの名も見える。台湾長老派のキリスト教彰化教会牧師の娘だった麗珍・麗娟姉妹は、彰化でキーステン・ハーゲンに出会った。

2023年12月27日、私は8年ぶりに麗珍さんを訪ねた。初めて取材させていただいた頃、麗珍さんは夫の高俊明牧師とふたりで台南に住んでいらっやった。当時80代前半だった麗珍さんは、今は91歳である。お元気だったご主人は今は亡く、台東県太麻里へ引っ越されて、長女夫妻とともに暮らしておられる。長女の夫は、先住民への伝道でできた台湾基督教長老派新香蘭教会の牧師である。麗珍さんは日本留学を終えてハーゲンさんのもとから台湾に帰ってまもなく高俊明さんと結婚し、山地の先住民の人びとへの伝道に力を注がれていた時代があった。

私は、台湾へ行く前に日本から麗珍さんに手紙を出していた。手紙を受け取った麗珍さんは、とても喜んで待っていてくださった。『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』や、愛知県瀬戸で開催したシンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」の特集号『日本近現代史研究』第5号、ノルウェーで開催した「An International Symposium on Japan Mission of Pentecostal Church of Norway」の特集を掲載した『日本近現代史研究』第6号をお渡しし、北欧から来た宣教師のことを改めて伺った。この年末の台湾における研究調査は、麗珍さんから始まった「北欧から来た宣教師と戦後日本」に関する研究の締めくくりともなる旅となった。

年が明けて2月初旬、私は1950年代初めにスウェーデンの宣教師ジョン・H・ジョンソン夫妻の開拓伝道でできた神奈川県の「保土ヶ谷純福音教会」と、1957年からゴスタ・アクセルソン宣教師によって伝道が開始された静岡県の「御殿場純福音キリスト教会」を訪ねて追加調査を行った。2023年8月には、フィンランドのカングスニエミ在住のタパニ・カルナ、レア夫妻の三女にオンラインで取材し、両親とともに京都で暮らした幼い頃と高校生を振り返ってもらった。

本研究によって、フィンランド人宣教師たちが北欧の宣教師たちの要に位置する存在だったこととともに、北欧自由基督教宣教団の戦後日本における開拓伝道の全貌が明らかになった。そして、フィンランド人宣教師とスウェーデン人宣教師の開拓伝道による、日本と北欧の地域社会相互の文化的社会的交流の実相、及びその詳細を記録化することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大谷渡	4. 巻 1
2. 論文標題 北欧から来た宣教師と戦後日本ーグローバル地域文化交流史の記録化ー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ICIS国際シンポジウム 北欧から来た宣教師と戦後日本 研究報告集』	6. 最初と最後の頁 17 - 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋寺知子	4. 巻 1
2. 論文標題 宣教師を日本へ派遣したフィンランド・スウェーデンの都市と教会ーヘルシンキ・ボーレンゲ・ヨーテボリーー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『ICIS国際シンポジウム 北欧から来た宣教師と戦後日本 研究報告集』	6. 最初と最後の頁 31 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷渡	4. 巻 9
2. 論文標題 北欧から来た宣教師と戦後日本（3） - スウェーデンから山梨へ -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 1 ~ 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋寺知子	4. 巻 9
2. 論文標題 スウェーデン人宣教師たちが生まれ育った街 ボーレンゲ、ソルベスボリ、ヨーテボリ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 21 ~ 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷渡	4. 巻 8
2. 論文標題 北欧から来た宣教師と戦後日本(2) フィンランドから京都へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋寺知子	4. 巻 8
2. 論文標題 資料紹介 Lea Karna著『Palavan pensaan aarella: Eino I. Mannisen persoona ja elamantyo(燃える 茨の茂みのそばで -エイノ・マンニネンの人生と仕事)』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 17~27
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大谷渡	4. 巻 7
2. 論文標題 北欧から来た宣教師と戦後日本 フィンランドから京都へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 1~18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋寺知子	4. 巻 7
2. 論文標題 『KAUNIS SAARI JA NIPPON』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本近現代史研究』	6. 最初と最後の頁 19~20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2022年度科研課題研究計画について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第10回研究会(2022.6.26)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 1950～60年代におけるスウェーデンミッションの山梨県での開拓伝道に関する資料調査報告
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第10回研究会(2022.6.26)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 山梨県におけるスウェーデンミッションの開拓伝道について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第11回研究会(2022.11.2)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2022年度科研課題研究成果報告と『日本近現代史研究』第9号の発行について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第12回研究会(2023.3.5)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 科研調査のためのフィンランドへの出張計画について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第10回研究会(2022.6.26)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 山梨県で開拓伝道を行ったスウェーデン人宣教師の出身都市について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第11回研究会(2022.11.2)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 『日本近現代史研究』第9号掲載論文について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第12回研究会(2023.3.5)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2021年度科研課題研究計画について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第7回研究会(2021.7.20)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2021年度科研課題研究進捗状況報告
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第8回研究会(2021.11.28)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2021年度科研課題の研究成果報告(1)ーフィンランド宣教師と戦後の京都
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第9回研究会(2022.3.13)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 レア・カルナの著書について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第7回研究会(2021.7.20)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 2021年度科研課題に関する研究報告
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第8回研究会(2021.11.28)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 2021年度科研課題の研究成果報告(2) - Document review Lea Karna, Palavan pennaan aarella: Eino I. Mannisen persoona ja elamantyo (By the burning bush: Eino I. Manninen's personality and life's work)について
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第9回研究会(2022.3.13)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2020年科研採択研究課題と研究計画
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第4回研究会(2020.7.5)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2020年科研採択研究課題の研究進捗状況報告
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第5回研究会(2020.11.1)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大谷渡
2. 発表標題 2020年度科研課題の研究進捗状況報告
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第6回研究会(2021.3.7)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋寺知子
2. 発表標題 フィンランドの暮らしと建物
3. 学会等名 グローバル日本史研究会 第4回研究会(2020.7.5)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 大谷渡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東方出版	5. 総ページ数 190
3. 書名 『悲しみは果てることなく』	

1. 著者名 陳来、高宮利行、吾妻重二、大谷渡、沈国威、二階堂善弘、西本昌弘、原田正俊、藤田高夫、増田周子、松浦章、三村尚彦、フレッド・E・アンダーソン、パトリック・P・オニール、陶徳民、和田葉子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 遊文舎	5. 総ページ数 576
3. 書名 『関西大学東西学術研究所創立70周年記念論文集』	

1. 著者名 西本昌弘、インゲル・ポールソン・田中富貴子・大谷渡・橋寺知子・劉ウェンティン	4. 発行年 2024年
2. 出版社 関西大学東西学術研究所	5. 総ページ数 64
3. 書名 『ICIS 国際シンポジウム「北欧から来た宣教師と戦後日本」研究報告集』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	橋寺 知子 (HASHITERA TOMOKO) (70257905)	関西大学・環境都市工学部・准教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関